annabe

創刊号

社福だより
annabe（アンナベ）　創刊号
平成 28 年 11 月
社会福祉法人あんず鍋島
佐賀県佐賀市神園三丁目１８番４５号
☎ 0952-31-1441

社会福祉法人
あんず鍋島　始動！

あんず鍋島設立への想い　～理事長・施設長にききました～
事業所紹介　～あんず鍋島の事業所・部門をご紹介します！～

社会福祉法人

あんず鍋島が本格始動！

今年7月に社会福祉法人としてスタートした『あんず鍋島』が10月1日、三つの事業所と共に本格始動しました！

- 訪問看護ステーションにじいろ
- ケアセンターＡＮＺＵ（あんず）
  居宅介護支援・訪問介護事業所
- 多機能型事業所ＷＡＮ
  就労継続Ａ型・Ｂ型事業

この3事業所（5事業）が新しい法人と共に船出をします。

現在は、特定医療法人杏仁会が活動してる佐賀市神園に本部がありますが、平成30年3月までに鍋島の地に移転予定です。

地域ケア・在宅ケアの拠点として地域の皆様のお手伝いができる様、頑張りますので、皆様のご支援を是非、よろしくお願いします！

今後の法人の予定

『あんず鍋島』は、まだまだ完成体ではありません！　現在、着々と今後の計画を検討討議中です。

10月より稼働した3事業所の他、介護付有料老人ホーム、小規模多機能型居宅介護事業所の設置許可を佐賀中部広域連合よりいただきました。

今後、施設建築、職員の体制づくり等々プロジェクトを進めていくことになります。新しいことが決まり次第、皆様にはお伝えしたいと思っております。皆様の暖かいご声援をよろしくお願いいたします。

施設長インタビュー

『顔の見える』関係づくり

◆今年7月6日に承認を受けた社会福祉法人『あんず鍋島』。施設長である盛永素子さんに、法人設立の想いと希望をお尋ねしました。

設立されて4ヶ月が経過しましたが、今の気持ちを聞かせてください。

より良いサービスを提供するためにも制度に則って安定的な事業運営を行わないといけません。その中で思い通りのサービスがすべて実現できるかは未知数です。そこを一番心がけたいところです。

法制度の下に運営をするわけですからやりたいこととやらなければいけない事の狭間で悩んだり工夫したりし続けるしかないと思います。今はまだ、法人本部が医療法人と同じ神園にありますので、精一杯鍋島移転のための準備をするだけですが、移転後はもっと公益性や地域性が求められるだろうし、それに応えられるか、鍋島の地で暮らしていくために今後の私たちの活動が問われると思っています。

それは、社会福祉法人としてやっていく上でということですか？

私たちが地域に認められて地域の中で暮らし、支援していくためにどう活動するのかということであって、社会福祉法人取得はその経過でしかないと思います。皆さん法人格で判断するのではなく、私たちの活動を通して認めていただけるのですから。

地域にとって役に立つ存在となり得るためにも、色々な方々が立ち寄り、相談しやすい場所として存在することが一番だと思います。施設全体が何をすべきかを常に模索していかないといけないと思います。

今後、地域の方々と、どの様な関わりをイメージしていますか？

やりたいと思っている事のひとつに、施設へのハードルを下げるため、施設内において定期的な軽トラ市の開催を考えています。

私たちの事業所では多機能型事業所ＷＡＮにおいて手工芸品等の作品作りなどを進めています。それらの商品や障害者施設の手作り作品、地産地消も目指したいので、地元の皆さんの新鮮な果物や野菜などを販売できる場所の提供をしたいと思っています。

また、私たち法人職員は医療機関から派生した専門職の集団です。理事長は医師ですし、看護師や介護福祉士、ケアマネージャー、精神保健福祉士、作業療法士などそれぞれの医療・福祉の分野が集まっています。専門職ならではの健康講座や難解な介護保険制度などをわかりやすくお知らせする等の情報発信もできればと思っています。

関わりのない方々にとって施設は入りづらいものです。このようなイベントを開催することで地域の人たちが気軽に立ち寄ることができ、お互いが顔の見える関係になれる企画の提供ができればと思っています。

その他にも地域で高齢者のサロンなどが開かれていると思いますが、可能であればお手伝いや場所の提供、そして、困りごとがあった時に気軽に訪れることができる場所づくりができればいいなと思っております。その他に、働く場の提供としていろんな仕事の仕方を模索しています。できれば、たくさんの鍋島に住む方々に法人で働いてほしい。例えば、家族の介護や子育て世代など、様々な事情で一日フルに働くことができないが、働く意欲がある方が働きやすい職場環境を少しでも実現することができればと考えています。

やりたいことはたくさんありますが、一度に全部は出来ません。地域の皆様との交流の中で一つずつ、実現したいと思っています。地域の皆様のニーズを洗い出すには、地域の皆さんとの顔の見える関係、連携でしかないと思っています。

これから超高齢・多死社会へとむかう中、地域社会で人生を送ることのお手伝いができるかは、私たちの更なる自己研鑽も必要となってくると思います。

理想はどのような施設ですか？

利用者様も、ご家族も利用してよかったと思える、地域の人がまずは相談してみようと思ってくださる、そして、職員がここで働いていると胸を張って誇りをもって言える施設でしょうか。その為にも頑張らないといけませんね。

最後に、一言お願いします。

職員一同一丸となって頑張っています。皆様のご理解とご支援があってこその私達です。1年半後には鍋島の地に移転します。

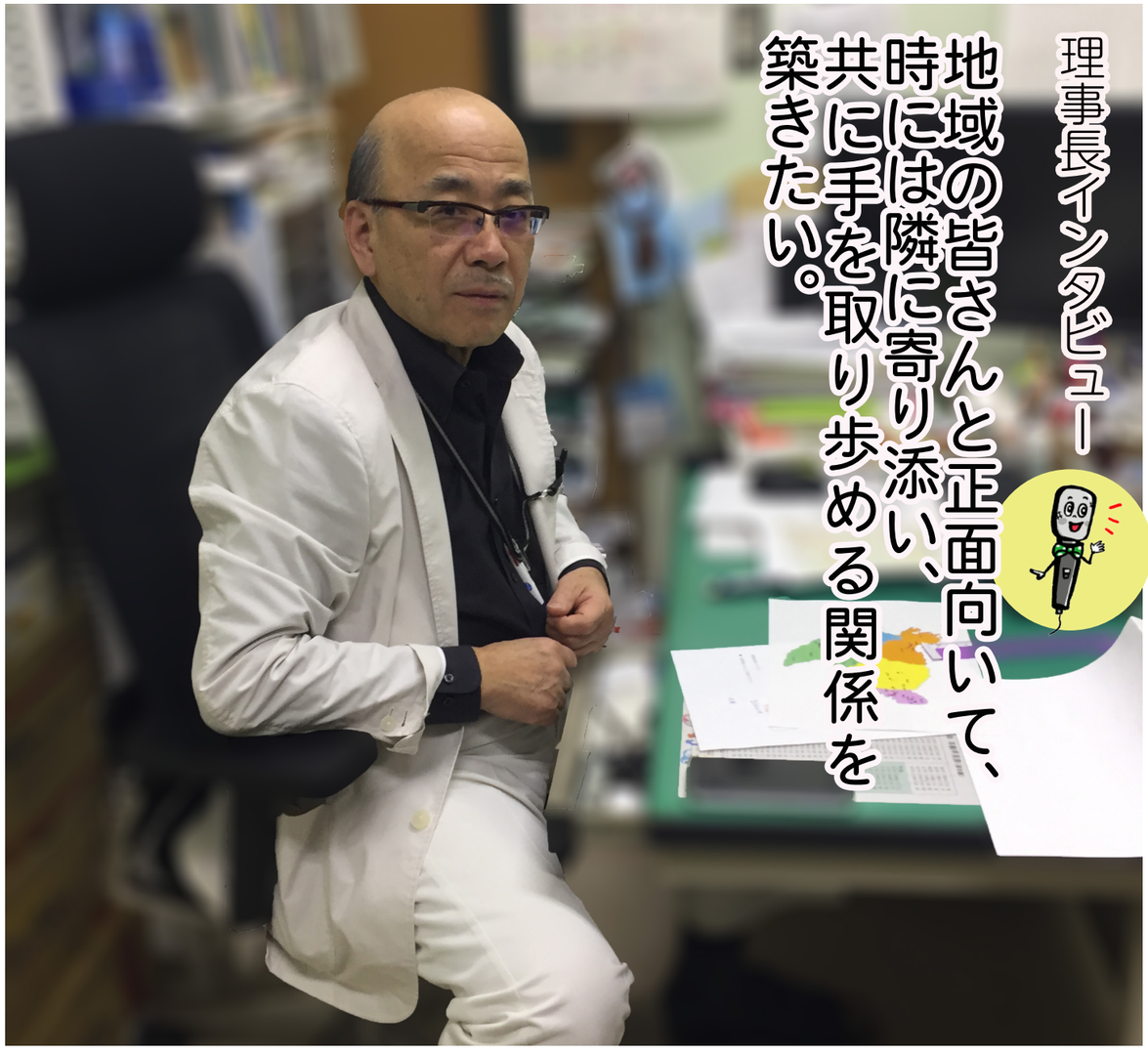
暖かく迎えていただけると嬉しいです。

◆盛永素子

伊万里市出身。S58 年看護師免許取得。佐賀大学病院で副看護師長、整形外科医療機関での勤務を経験後、H ７年に神野病院に入職。病棟看護長～リハビリ部部長補佐となって以降、在宅支援に関わり、訪問看護ステーション、介護事業所等の管理者を兼任。
今年７月、あんず鍋島施設長就任。
社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員

理事長インタビュー

地域の皆さんと正面向いて、時には隣に寄り添い、共に手を取り歩める関係を築きたい。



◆石丸大輔　佐賀市神園生まれ。S45 九州大学医学部卒業。九州大学医学部付属病院精神神経科勤務。退職後は福岡～大分県内において内科（消化器・呼吸器）、外科、救命救急を行ったのち大分市特定医療法人天心堂へつぎ病院設立、副院長（外科、救急、在宅医療）S63 杏仁会 神野病院 理事長就任、H28.7 月　社会福祉法人 あんず鍋島設立、理事長に就任、現在に至る。多久市救護施設しみず園理事長。佐賀県精神科病院協会会長。他
精神保健指定医、身体障害者福祉法指定医師。

あんず鍋島の石丸大輔理事長に法人設立の想いと今後について伺いました。

今の医療・介護・福祉に関して思うことは？

現行の制度や支援はそれぞれの分野で実行されていてバラバラな状態。

地域住民の人たちが必要としている思いや、困りごとに対して、企画（制度）が追い付いていないと感じる。それは現状から見れば今さらな話かもしれないし、もう遅いのかもしれないが、若い人たちはこれからだから。

医療～介護～福祉の包括的な支援事業を自分たちが必要とするものを地域の人たち自身で企画していける環境が本当は必要であり、一番大事なことではないかと思う。『あんず鍋島』も医療や、介護・福祉の制度の中で少しでもお手伝いをすることができればいいと思っている。そのためには、私たちの企画力が問われるだろうけど。

『あんず鍋島』の目指すところは？

在宅ケア・地域ケアの拠点　常に地域の人と共にある、利用できるケアの拠点づくり。拠点と言えば大きくなりすぎると思うが、老若男女問わず、困っている人がいつでも相談できる、常に地域の人が必要に応じて利用できる、集える場所づくり。

地域の中で安心して育つ・学ぶ・住む・暮らす・遊び・楽しむことができる地域づくり（企画）を・・・お手伝いをしたい。

その医療とか、介護とか、福祉とかの制度の中でもう少し、私たちが果たすべき役割があるのではないだろうか。今よりも一歩先に地域福祉を通して鍋島を案ずる（『あんず』る）こと。

鍋島を元気にすること。

キーワードは地域創生　地域を知る。自分自身が鍋島のＦａｎ（ファン）となって鍋島で働く・住む・食べる・楽しむことができるように。

法人職員に期待することは何ですか？

地域の方たちときちんと向き合って、溶け込み、時には隣に立って、共に活動ができる人になってほしい。

地域の中で地域の皆様と一緒に人の心を動かす企画、楽しいアイデアを作る、例えば、お祭り。地域の皆様と一緒に企画していければ・・・　地域の皆様との顔の見える関係づくりを模索する中で、自分たちの能力を最大限に発揮してほしい。

そのためにもコミュニケーション能力の向上は必要。その力を培ってほしい。

そして自身も鍋島の中で楽しんでほしい。

理事長を兼任されている特定医療法人杏仁会がある神園とあんず鍋島の鍋島、２つの地域に対する想いを教えてください。

元々、杏仁会のある神野地区で生まれ育った。また、鍋島に居を構えて約25年になる。

子供の頃は今と違って車もあまりなく、鍋島は多布施川を越えて少し遠い所ではあったが、ガキ大将だったころは地域を超えてよくケンカをしに行っていた。鍋島地区はその頃からの付き合い。

野山を走り回り、畑のスイカや瓜を失敬して農家のおじちゃんおばちゃんに追っかけられて怒られて畑の手伝いをさせられた。

また、鍋島という地は、元来、農業の盛んな土地でなおかつ、大学や病院もでき、農業と文教が共存している土地。医療の核となりつつ、佐賀市の中でも他の農業地域に劣らず農業も中心的な場所。生産も消費も盛んな地域性と共に佐賀に貢献してきた地域と思っている。地域性を発揮してきたこの場所で、新しく地域ケアという活動を広げる、高齢者医療・福祉、子供の成長などへ支援を向けていくことができれば。その中で地域にとって本当に必要とされるもの、その方向性を見出していくことができれば…つないでいきたい。

介護福祉の分野で言われている『在宅』や『地域密着型』というのは本来の地域医療福祉ケアの姿だと思う。より本来の「暮らす・育つ」ということに関しての最善の姿だと思っている。そこに我々の役割を地域の一員として見出させていただきたい。

神野も鍋島も自分自身の根幹を醸成してくれた土地。『あんず鍋島』と『杏仁会』での活動は、自分を育ててもらった地域への最期のご恩返しのつもりだ。

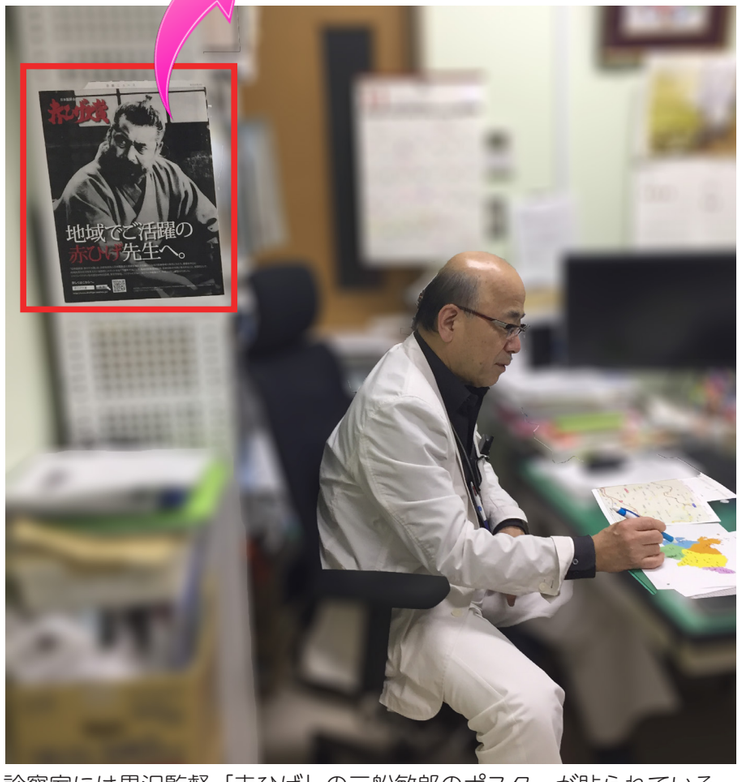
最後に一言お願いします。

「お気軽に〝あんず鍋島〟においでください。」

※右の画像は、日医ニュース「赤ひげ大賞」のポスター。（平成27年6月5日発行）

写っているのは三船敏郎演じる、〝赤ひげ〟こと、新出去定（にいでさきさだ）役の三船敏郎の姿。小石川養生所を舞台に、病者と懸命に治療する医者との交流を描く。黒澤明監督の名作。昭和40年封切。東宝映画。

神野も鍋島も自分自身を育ててくれた土地。あんず鍋島と杏仁会での活動は、育ててもらった地域への自分の最期のご恩返しのつもり。



診察室には黒沢監督「赤ひげ」の三船敏郎のポスターが貼られている
“赤ひげ”は私の「先生」と話される石丸理事長。

だんごならぬ
あんずきょうだい

あんず鍋島の 事業所・部署を 紹介し ます!!

訪問看護ステーション ねじいろ

看護師がご自宅に
訪問いたします。
地域で暮らす利用者の
方々へ健康管理やお薬
管理などのお手伝いを
しています。

ケアセンター ANZU(あんず)

◎訪問介護事業所(通称：ヘルパー)
◎居宅介護支援事業所
(ケアマネージャー)です。
ヘルパーがご自宅に訪問し、
家事や入浴介助、を行います。
また、ケアマネージャーがケアプランの
立案など行っています。

<頼れる長女>(施設長兼務)

管理者：盛永素子

在宅生活のお手伝いをいたします!

多機能型事業所 WAN

<ほんわか癒し系長男>

管理者：隈元大二

障がい者の就労支援をする事業所です。
障がい者・健常者がHAPPY－HAPPYの関係性を築いていくことを理念として日々奮闘中です。つまりは、
それぞれの想いの幸福度を追求すること!!利用者さん、職員含め皆の笑顔があふれる事業所を目指します。
応援よろしくお願いいたします!

<しっかり者の次女>

主任：多久智子

法人の経理・労務・事務局業務を担当しています。利用者の方々のサポートと職員の皆さんの業務が円滑に進むように縁の下の力持ちで頑張っていきます!

社会福祉法人あんず鍋島
ご支援のお願い

社会福祉法人あんず鍋島は、
地域に根差した活動をめざして誕生いたしました。
地域密着型の福祉活動の展開を目標として地域の方々への在宅～地域福祉支援（もやい、よりあい、よいあい）、在宅精神障がい者の方、
同じく少年～青壮年障がい者の方への地域支援、就労支援事業等々、活動すべてが地域づくりへとつながる健康力（地域力）となるよう連携・支援の中心となりたいと願っています。

医療・介護を通じた『地域創生（まちづくり）』をこの活動のもう一つの目標として活動いたします。
共に生き、共に暮らせる豊かな社会を目指すため、地域の皆様のご理解を願っております。
当法人の趣旨にご賛同いただけます方には
ぜひご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

おいくらからでも、皆様のお気持ちをご支援ください。

ご支援いただける方はお手数ではございますが、
下記の法人事務局までご連絡ください。
ご入金方法など、担当より改めてご説明させていただきます。

社会福祉法人　あんず鍋島　管理課

〒840-0806　佐賀県佐賀市神園 3-18-45　神野病院内

☎　0952-31-1441　Fax　0952-32-3469

黒子のひとこと（編集後記）

annabe 創刊号はいかがでしたか？ご挨拶も込めて“あんず鍋島”とその理事長・施設長・管理者の紹介をさせていただきました。個性的な面々の魅力を黒子の力量不足でお伝えすることができていないのが非常に残念です。ここはひとつ表紙を飾っている職員全員の 120 点満点の笑顔にお許しください。『日々精進』で楽しくためになる広報紙となるよう頑張ります！

話は変わりますが、皆さん音楽はどういったジャンルを聞かれますか？私は気に入ったものがあればなんでも聞きます。今のマイブームはＮＨＫの朝ドラで大ブレイクした五代様こと DEAN FUJIOKA さんの『HistoryMaker』という曲です。Yes,we were born to make history（そうさ私たちは歴史を創るために生まれてきたんだ）というフレーズがあります。創刊号作成中は、今の“あんず鍋島”の職員の皆さんが頑張っている姿と重なって、この曲がずっと頭の中で流れていました。“あんず鍋島”の新たな出発は、皆様の応援・ご支援が頼りです。今後とも“あんず鍋島”をよろしくお願いいたします！

次回は、『訪問看護ステーションにじいろ』特集！発行は　来年１月（新春号）です！